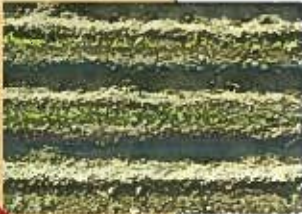


◆ カシムギ栽培暦 ◆

月	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
麦の生育				出芽期			分げつ始期			分げつ期						莖立期			出穂期						成熟期		
																											
栽培管理	播種						①			②			③			追肥			赤かび防除			収穫			乾燥調製		
	播種適期は11月上旬です。 県央以北では、播き遅れると凍上等の寒害による被害が大きくなりやすいので、遅くとも11月中旬に播種を行いましょう。			麦踏みを行いましょう。土壌が乾いているときに、10日以上の間隔を空けて行います。			年内から莖立期まで3回以上麦踏みを行いましょう ※莖立期以降の麦踏みは、減収や遅れ穂を誘発します。			生育量が不足している場合は莖立期までに、生育量が十分であれば出穂期に追肥を行います。 施肥量は窒素成分で2～4 kg/10aとします。			成熟期の2～3日後、穀粒水分が30%以下になったら収穫しましょう。成熟期以降長期間放置すると中折れが発生しやすいので、適期収穫を心がけましょう。														
高品質安定生産のためのポイント	基肥窒素量は6 kg/10a 圃場の肥沃度に応じて増減させます。			麦踏み開始時期は3葉期以降が基本です。 霜柱が立ちやすい圃場では早めに麦踏みを開始しましょう。 麦踏みは、耐寒性の向上、凍上害の防止、分げつの促進、過繁茂の抑制、穂揃いをよくする効果があります。			莖立期頃の追肥は、穂数等を増やし収量を向上させます。			雑草の発生は収量やタンパクに影響します。 茎葉処理剤を適期に散布し防除を徹底しましょう。			出穂期頃の追肥は、千粒重・粗タンパク質含量の向上に効果的です。 穂の損傷を防ぐため、追肥作業にはハイクリアランスの管理機等を利用しましょう。			出穂期3日後頃開花を確認した時に、赤かび病防除を実施。			乾燥穀温は40℃以下、仕上げ水分は12.5%以下とし、調製篩目は2.2mmを使用。								
	播種前の準備			播種期と播種量			オオムギ縮病の防除対策について																				
・オオムギは酸性に弱く、障害を受けるため土壌酸度がpH5.5～6.0(KCl)となるように土壌改良資材を散布しましょう。 ・リン酸やカリ等も県の土壌改善基準を満たすように施用しましょう。 ※特に、黒ボク土等の火山灰土壌ではリン酸が不足しがちなので、注意してください。 ・オオムギはコムギより湿害に弱いので、転換畑では排水対策（明渠の施工等）を必ず行いましょう。			11月上旬 8kg/10a 播種深度（2～3 cm）を遵守しましょう。 凍上害などで苗立数（200本/m ² ）が確保できない圃場は播種量を増やしましょう。			・カシムギはオオムギ縮病に弱いため、発生圃場への作付は控えましょう。 ・圃場をよく確認し、早期に発見しましょう。発病は2～3月頃から確認できます。 始め新葉に斑点が現れ、その後黄白色の縞状になり、株はやや萎縮します。 ・発生圃場の麦踏み・追肥・薬散等管理作業は最後に行い、作業終了後には必ず機械を洗浄しましょう。 ・小麦や抵抗性品種の大麦を作付けし、輪作を行いましょう。 ・日平均気温が5℃以下となる頃に遅播きすることで発病を抑制することが可能ですが、気象条件等により抑制効果に差があり、また収量にも影響をおよぼすので注意が必要です。																					
栽培上の注意点			・種子は、毎年必ず更新し、種子消毒をしっかりと行いましょう。 ・輪換畑では粒を充実させ、タンパクを向上させるため追肥を励行しましょう。 麦茶用のカシムギは、高タンパク（10.5%以上）が求められています。 ・そばの発生にはとくに留意しましょう。発生を確認した場合は茎葉処理剤を適期に散布し、収穫前に圃場を確認して収穫物に決して混入しないようにしましょう。 ・除草剤・農薬を使用する際には、必ずラベルを確認し、正しく使用してください。																								